2015-2016 年度今治ロータリークラブ週報 No.15

第 １５ 回 例 会 報 告（１０月２２日）

【 出　席　報　告 】

・会員数　５４名　・出席数　３５名　・欠席数　１９名
・当日出席率　６６．６６％　・前々回修正出席率　８９．８０％
＜欠席会員＞日野、平田、木村、小堀、河野、桑森、松木、松本、宮道、越智、岡本、大河内、尾関、田中、竹田、八木
〔免除会員〕青野(明)、檜垣(巧)、宮本
<10/8 欠席補填>(9/29 今治南)原、檜垣(賢)、日野、板脇、松本、岡本、尾関、渡辺、山本　(10/6 今治南)河野
(10/13 今治南)尾越

◇会長報告・ガバナー杯野球大会へご参加の皆さま、お疲れさまでした。私と尾関会員の活躍で接戦まで持ち込みましたが、昨年優勝・今大会準優勝の高知中央 RC に 5-10 で敗れました。

◇幹事報告・第 3 回ゴルフコンペを 11 月 23 日（月祝）に行います。場所は今治 CC、9 時 1 分スタートです。

国際奉仕委員会アワー

◆ガーナNGO法人 MY DREAM.org 代表　原ゆかり氏『持続可能な開発を通じて子どもの夢を育む～MY DREAM プロジェクト』:今治西高・東京外国語大を経て2009年に外務省に入省。それから2年間、国際保健を学ぶためにアメリカ・コロンビア大学へ研修留学した際、インターンでガーナへ半年間滞在した。そこで地域の人たちと立ち上げたMY DREAMプロジェクトを維持継続するため、卒院後はガーナ大使館員を希望し、勤務すること2年半。帰国が決まった今年8月には外務省を退職、11月から南アフリカの三井物産ヨハネスブルグ支店で働きながら二足のわらじを続ける予定。▼ガーナの首都アクラは海に近く経済的に恵まれ、巨大なスーパーや家賃が月40万円もするアパートが立ち並ぶ。一方、北へ車で1時間も走れば土壁・藁葺き屋根の家に住み、泥んこの水を飲む子どもたちが木の下のマーケットに集う光景に出会う。私たちのプロジェクトはアクラから飛行機と車を乗り継いで3時間近くかかる、北部の中でも特に貧しいボナイリ村で実施している。▼3年前にインターンでこの村を訪れたとき、幼稚園は木の下で開講されていた。そのため2～3か月続く雨期になると幼稚園は休園し、子どもと過ごす親たちの経済活動が停滞する。そこで建物を建てて雨期でも幼稚園で学べるよう、「雨の日も幼稚園に通おう」プロジェクトを行った。3か月、しかもたった30万円でできた建物だが、現在は2000名の村で200人の子どもたちが通う。大使館員としてガーナに戻ってからも余暇を利用し、村の人たちと一緒に子どもたちが夢を見つけ、追いかけ、実現することができる環境づくりのお手伝いをしてきた。▼保健・教育など、プロジェクトを継続していくのにお金が必要なのはもちろんだが、それを海外からの寄付に一生頼り続けるのは不健全。それで村人たちの発想から、自然由来のクリームやカラフルな布を使ったバッグやエプロンを作ってブランド化し、世界に自分たちで売って自分たちで社会福祉をしようとビジネス展開している。つまり私たちがお手伝いするのは村の人たち主導で行うボナイリ村の村おこし。私たちのNGOは90%以上が現住ガーナ人。今では50名ほどの村人がチームを組み、運営にあたっている。▼現状では看護師や助産師がいるクリニックまで徒歩1時間、医師のいるところへは徒歩3時間かかる。これでは救える命も救えない。それで村人たちと自分たちのクリニックを作ろうとクリニック・プロジェクトを始めた。また、前述のガーナコットン・プロジェクトは中国製手回しミシンで作ったカラフルな布製品をガーナだけでなく、イベントの度に日本やアメリカでも販売し、その収益をクリニックの建設や教材費など、プロジェクトの運営にも充てるもの。こうした教育や保健の社会還元活動、それを支える収入向上活動がMY DREAMプロジェクトの両輪と考えている。▼ボナイリ村に生まれたから夢は見させてもらえたけど叶えられなかったというのは避けたい。持続可能な発展があってこそ、子どもたちの夢を育むことができる。そう信じ、環境づくりを村の大人たちと共に続けている。

＜ゲスト＞ガーナNGO法人 MY DREAM.org 代表　原ゆかり様
＜ビジター＞今治南RC　野間照博様＜菓子販売＞

次 回 例 会（１０月２９日）

【　会員増強委員会アワー　】

＜会員誕生日祝＞　宮道　勝敏氏（11/4）
＜配偶者誕生祝＞　吉武　誠治氏（10/29）
＜結婚記念日祝＞　吉武　誠治氏（11/3）　山本　剛氏（11/3）　日野　満氏（11/3）
渡邊　道信氏（11/4）　檜垣　賢二氏（11/4）　眞鍋　次男氏（11/4）

〔　俥屋　〕